

新潟県からみた「満州」移民

新潟県新発田市立紫雲寺中学校 加藤広章

1 はじめに

本單元について、学習指導要領では、「経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる」とある。

生徒にとって、戦争＝悲惨なできごと、二度と起こってほしくないできごとではあるが、一方で遠い昔のできごと、教科書に出てくる歴史上のできごとの一つにしかすぎず、身近なこととしてとらえにくくなっている。このことは、家庭や地域で戦争を語り継ぐ人がどんどん少なくなっていることも、少なからず影響していると考えられる。

これらのことから、戦争や戦時下の国民生活がどのようなものであったのかを地域の歴史を通して理解し、自分たちの地域や近隣地域のできごととして身近にとらえさせたいと考え、『新潟県史』、『紫雲寺町誌』を資料とした授業構成を考えた。

2 単元の指導計画

『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）第5部 8章 アジアと太平洋に広がる戦線
～「満州」移民を通して～（次段表1参照）

3 指導の構想

(1) 単元構成について

本単元を5時間で構成する。『新潟県史』を資

表1

		「満州」移民をすすめた理由
1次	1時	第二次世界大戦への道 ～「満州」移民とは～
	2時	植民地の支配と抵抗 ～なぜ「満州」へ渡ったのか～
2次	戦局の悪化と苦しい生活 ～「満州」でのくらしは～	
3次	ポツダム宣言と日本の敗戦 ～終戦、その時「満州」は～	
4次	それぞれの敗戦と出発 ～敗戦と「満州」移民～	

料として、「満州」移民を通して、第二次世界大戦のはじまりから終戦までをとらえられるように構成する。

(2) 指導の構想

教科書p.214～215に長野県からみた「満州」移民の事例が出ている。まずはここを参照させ、移民をめぐる大まかな流れを理解させる。次に、新潟県からみた戦争という視点から本単元を進める。生徒たちの住む新潟県は「満州」移民の総数が全国で第5位である。これほど多くの人々が満州に渡っていたことを知っている生徒は少ないのではないだろうか。このことから当時の新潟県に興味をもたせたい。具体的には次の点を切り口に学習課題を設定する。

- ・世界恐慌がもたらした経済混乱による県政や県民生活への影響
- ・戦争下の県民生活
- ・県からの満州移民の経緯や開拓の実態、日本の植民地支配について考える。

身近な地域と戦争のかかわりを明らかにしていくことで、戦争は、わが国だけではなく、戦場に

なった国や地域の人々を巻き込んだできごとであったことや、その爪痕がひじょうに大きかったことを理解させたい。この学習を通して、戦争は二度とあってはならないことであり、起こさないために国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると生徒自身が気づくような授業展開にしたいと考える。

4 授業案 — 「満州」移民をすすめた理由—

(1) ねらい

「満州」移民の理由を調べることを通して、世界恐慌の影響による経済混乱や日本の植民地支配について理解する。

(2) 評価規準

- ・戦線が拡大するなか、身近な地域の人々も最前線へ送られたことを知り、意欲的に調べようとしている。【関】
- ・統計資料から世界恐慌の影響で米価やまゆ価が下落し、農村が窮乏化したことが原因であることを読み取り、説明しようとしている。【思・判・表】
- ・資料から新潟県の満州移民の経緯や送出国状況を理解している。【資】

(3) 展開 (2時間扱い)

【1時】学習課題

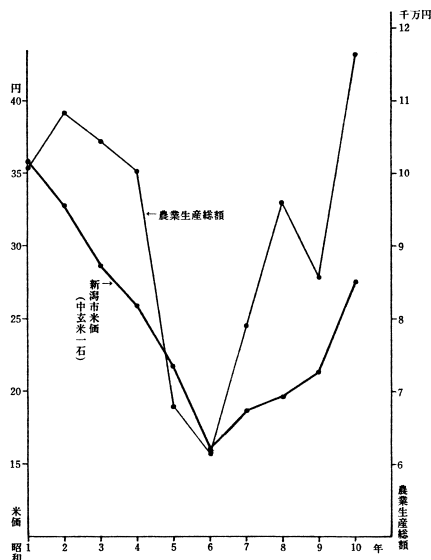
第二次世界大戦前に起きた世界恐慌による経済混乱は、県政や県民生活にどのような影響を与えたのか？

展開1

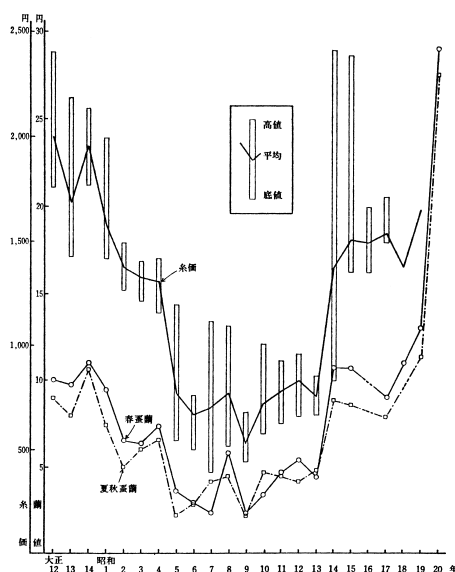
- ①「世界恐慌は、県民にどのような影響を与えたのだろうか？」
- 資料1・2から米価やまゆ価の下落した時期とそれが県民生活にどのような影響を及ぼしたかについて考えさせる。

まず、米価、まゆ価がもっとも低くなるのはどの時期か、生徒に答えさせる。それぞれ昭和6年、昭和5～9年であることが確認できたら、この時期に下落した理由を世界恐慌とのつながりで見えさせる。まゆ価についてはニューヨーク株式市場での株価大暴落が日本の輸出産業の基幹であっ

た養蚕業を直撃したことを説明する。米価は、生産力の上昇、価格の好調が続いていたが、世界恐慌による農産物の下落と豊作による下落が重なったかっこうとなり、昭和6年に底値を記録する。日本全体の動きと新潟県の動きが連動していることを確認させたい。



資料1 「米価と農業生産総額の動向」
出典 『新潟県史 通史編8 近代3』 p.265



資料2 「新潟県の平均繭値・横浜市の糸価」
出典 『新潟県史 通史編8 近代3』 p.294

【板書例】

米価やまゆ価の下落→農村に大きな打撃
= 養蚕農家、米作農家
養蚕業の衰退 農村の過剰人口 生活苦



資料3 『アドバンス 中学歴史資料』p.176「⑦『満州』移民をすすめるポスター」

②「世界恐慌の影響による経済混乱をどうやって切り抜けようとしたのだろうか？」

困窮した農村を抱え、国は豊かな資源を求めて大陸や南方へ進出していったことを理解させる。昭和12年広田弘毅内閣が出した「20カ年100万戸送出計画」により、県の農家がいっそう満州国へ渡った。その理由は、農村過剰人口・土地不足解消のため、満州国においては政治・軍事の担い手としての期待をかけていたためであることを説明する。

【板書例】

資源確保→大陸（資源豊かな「満州」へ）
南方進出

軍備増強→軍部の台頭 → 戦争へ

○国策「20カ年100万戸送出計画」

③「太平洋戦争はどのようにしてはじまったのか？」

・1940年 日独伊三国同盟

・1941年 日ソ中立条約

→資源を求め東南アジアへ

A B C D包囲陣 輸出制限

・1941年12月 マレー半島上陸、ハワイ真珠湾攻撃→太平洋戦争

④「戦争はどのように拡大していったのだろうか？」－地域の人たちはどこに動員されたのだろうか？－

○『町誌』の戦没者名簿を見せる。地域の方がどこに出征しているかを読み取り、自分たちの住む地域からも戦争が拡大していったようすを実感させたい。

【2時】学習課題

人々はなぜ「満州」へ渡ったのだろうか？

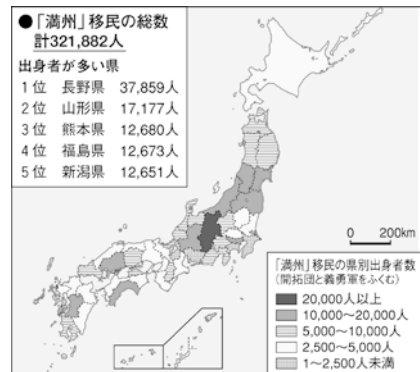
展開2

⑤「多くの人々が満州に渡った理由を考えよう。」

資料4から日本全体の満州移民のうち、新潟県から移民した人がどれほどいたのか、生徒に読み取らせる。意外な数に驚く生徒もいる。移民の背景として次の点について再度説明する。

○世界恐慌の影響と凶作の影響

…農村の過剰人口・土地不足



資料4 「⑧都道府県別『満州』移民」
『社会科 中学生の歴史』p.215

次に、新潟県の動向を資料5、6で確認する。新潟県は地理的条件からもともと満州への関心が高かったが、農業移民にはそれほど積極的ではなかった。しかし昭和11年、国から指導を受けたことをきっかけに、移民を本格的にスタートさせたという背景を説明する。その際、『中学校社会科地図』を開いて新潟県とかつて満州があった中国大陸との距離的感覚をつかませるのもよい。また、米作がさかんな地域は冬の産業として養蚕がさかんな地域でもある。山間部、平野部からの移民が多い理由として説明する。

年号	満州移民に関する本県の動き
1932 (昭和7)	満州国建国
1933 (昭和8)	県会議員満州視察団派遣
1937 (昭和12)	「20カ年100万戸送出計画」 県民の満州集団移民はじまる
1938 (昭和13)	農林・拓務両省「分村移民計画」成立 新潟港満州移民の出発港となる
1940 (昭和15)	新潟満蒙開拓館開館 新潟県に拓務課設置 四郡六村を分村移民に指定
1945 (昭和20)	終戦 引き揚げ開始

資料5 「満州移民関連年表」
『新潟県史 通史編8 近代3』より作成

次数	団名	入植地	計画	入植	達成率	主たる送出地域	渡満年月日
			戸数	戸数			
1	弥栄村	三江省桦川县	40(27)				
2	千振郷	依蘭県	50(33)				
3	瑞穂村	北安省綏化県	9(7)				
4	哈達	東安省密山県	21				
	城子河	〃	2				
	黒台	〃	53				
	朝陽屯	〃	2				
6	五福堂	北安省通北県	200	212	106		昭和12.4.9~
7	清和	東安省虎林県	200	200	100		昭和12.6~
8	朝陽	山竜江省甘南県	200	165	82.5		昭和13.6~
	阿倫河	〃	300				
9	東火梨	北安省通北県	300	114	38.0	刘羽郡中心、頸城3郡	昭和14.6.26~
	西火梨	〃	300	124	41.3	魚沼3郡、古志郡	〃
	二竜山	北安県	300	115	38.3	〃	〃
10	佐渡	東安省勃利県	300	65	21.6	佐渡郡	昭和15.7.4~
	西宝	竜江省甘南県	300	91	30.3	中浦原郡	〃
11	津南郷	三江省鶴立県	300	92	30.7	中魚沼郡	昭和16.9.18~
	柏崎村	通河県	200	60	30.0	柏崎市、刘羽郡	昭和17.4.6~
12	共栄村	湯原県	300	83	27.7	中魚沼郡	〃 5.18~
	新潟	竜江省鶴立県	200	142	71.0	新潟市、その周辺	昭和18.4.13~
13	西火梨山田村	北安省通北県	16			中魚沼郡	昭和19.4.12~
	阿倫河下田郷	竜江省甘南県				南浦原郡(推測)	
	刈谷田郷	竜江省鶴立県	133			南浦原郡	昭和19.2.17~
14	中条村	三江省鶴立県	26			中魚沼郡	昭和20.5.7~
	青海郷	四平省梨樹県	27			南浦原郡	〃 5.8~
	中越郷	〃	18			〃	〃
計			1,860+(175~195)+α				

注 1) 『満州開拓史』、『新潟県年鑑』昭和17年度版、『新潟新聞』、『新潟日日新聞』、『新潟日報』、『新潟中央新聞』より作成
 2) 第1次~第3次は()内数値のみ新潟県庁所蔵『満州開拓団員名簿』によって確認できる。入植地は当時の呼称である。
 3) 第8次「阿倫河」は、敗戦時の全体の人数、応召者などを他と比較し、およそ175~195戸と推測できる。

資料6 「新潟県における集団開拓団送出状況」
 出典 『新潟県史 通史編8 近代三』 p.744

【板書例】

○新潟県における満州移民

1930 (昭和5) 年の昭和恐慌…米価急落
 1934 (昭和9) 年の凶作…まゆ値の低落



山村部 (岩船、東蒲原、西頸城、魚沼)
 出稼ぎ者の帰村…土地不足
 1938 (昭和13) 年 新潟港…満州への出発港
 農林・拓務両省…「分村移民計画」、
 集団移民 → 入植
 1937 (昭和12) ~1945 (昭和20) 年
 約2000戸が入植
 青少年義勇軍…県内各地から送出
 「日本の生命線」である満州を守る

まとめ

ここまでの内容のまとめとして、生徒に質問を投げかけながら下記の板書を完成させる。

【板書例】

- 朝鮮や台湾での植民地支配
 「皇民化政策」…日本語の強制
 創氏改名
- 東南アジアの占領下

「大東亜共栄圏」…現地調達

日本語教育

反日・抗日運動の展開

5 言語活動の充実

ワークシートの活用と話し合い活動を積極的に行った。

(1) ワークシートの活用

問いに対して自分の意見や考えを文章で表現したり、図や資料から読み取れることを適切に文章で表現したりすることができるようにワークシートを工夫する。たとえば、まゆ値の動向について、世界情勢との関連から下落の理由を文章で書かせするなど、言語活動をうながす発問を増やす。

(2) 話し合い活動

自分の考えを相手に伝えるには、文章にすることと要点を絞って簡潔にまとめることが大切である。また、他者の話を聞き、自分の考えをまとめるという点でも話し合い活動は有効である。

6 終わりに

これまで満州移民について詳しく取り上げたことはなかった。満州移民は世界恐慌を発端とする経済危機から終戦までの歴史を大観できる題材である。自分たちの地域からも多くの人々が軍人として召集され戦地に向かったこと、戦争によって尊い命が奪われたこと、満州へ渡った人とそこでの現実。資料を読み解くには少し難しいかもしれない。しかし、『県史』や『町誌』は、戦争を後世に語り継ぐ貴重な史料である。

生徒に歴史を身近なものとしてとらえさせるには、身近な地域の歴史から日本、そして世界の歴史的事象を見ることが、理解を深めることにつながる。『県史』『町誌』等を授業に活用することは、生徒にとって史実を身近に感じさせるための有効な手段であると考えられる。

=参考文献=

『紫雲寺町誌』昭和57年 紫雲寺町
 『新潟県史 通史編8 近代三』昭和63年 新潟県